

## 分 担 と 協 調

故 藤 高 周 平

6 代所長



故藤高教授

長所をのぼし、欠点を是正する。これはいつも言われることであり、又いつも思いおこすことでもある。

由来、わが国は人口密度の著しく高いせいか、必要以上に对人的競争が多過ぎる。お互いに他の長所をのぼすために協力し、他の欠点を補うことによって、各人がどんだんのびてゆく姿であって欲しいが、なかなかそうはゆかない場合が多いのではないか。他の欠点をあばくだけで自分だけが伸びようとするようでは、他からの協力が得られないのは当然で、自分も大きくは伸び得ないし、全体の大成もあり得ないことになる。とくに工業あるいは技術に関しては、すべて協力が必要である。大きな仕事になればなる程大多数の協力が必要になる。勝れた構想や、ざん新な発明があっても、その欠点を是正し、大きく完成せしめるための多方面の協力があって初めて、その実現が完成する。

大きな企業、組織では当然仕事の分担が必要になる。分担によって、仕事の責任が明らかになることは結構だが、自分の立場を固守する余り、他との調和を顧みない、あるいは軽視する傾きが時として見受けられる。他と協調をとりながら、自分の立場を堅持する心がまえがなくては、大きな仕事はうまく進まないだろう。

電気絶縁の設計に絶縁協調という言葉が使われる。一つの電気回路、それがいかに大きな系統であり、いかに多数の発電所があり、いかに多くの運転機械が結ばれていても、全体の絶縁がバランスしていることが合理的である。全構成中の一カ所でも絶縁の弱点があると、全体が使えなくなることは明白である。又より大切なことは、ある場所の絶縁が必要以上過度に強くても、その場所に費した絶縁工作は全く無意味なことである。最も合理的な、経済的な絶縁の設計が絶縁の協調という言葉で表わされる。他を押しつけて、自分の担当面に大きな予算を取り、自己の担当範囲のものだけを立派なものに仕上げても、他と調和していないのでは全体の構成としては無意味なものであろう。協調の取れていない絶縁設計と同じで不合理至極と考える。絶縁設計では、いかに低減した絶縁で経済化をはかるかということが優秀なことは明白である。かかる低減された絶縁を外側からカバーして、その低減絶縁を支持成功せしめる協力態勢が十分はかられていることが、合理的な絶縁設計で、絶縁協調の美しい姿である。

分担しつつ大きな企業を立派な姿にするためには、この絶縁協調に通ずる心がまえが、お互に必要なであろう。“人の美を成し、人の悪を成さず”(論語; 成人之美, 不成人之悪) と言う言葉がある。他の人の善の完成を願い、人の悪はこれをカバーする意味と解する。人の内容を絶縁に置き換えると、全く絶縁協調の姿でもある。絶縁設計のみならず、すべての技術的仕事、すべての組織全体の経営においても、各部局が、各個人が、お互に心すべき基本条件が、この字句に含まれているのではなからうか。

専門が高電圧絶縁の自分が、色々の場合に、自分自身に言い聞かしているような内容の記述になった。しかしあくまで、人々がお互に、上記のような協調の精神に徹して、はじめて大きな仕事に寄与できるものと考えている。

\* 藤高周平元所長は昭和42年11月26日逝去されているので、ご遺稿のうちから編集委員会がえらばせていただいた。この論説は「電気鉄道」誌に昭和36年掲載されたものであるが、転載については同誌のご承諾を得ている。